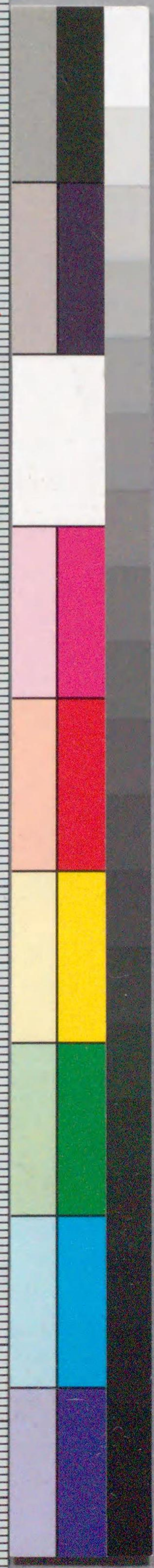


盡用而二分狂言
大藏山人比
豊國畫

207
272



寛政三年印本

真

序

公羽乃くよまの心を唇定し利の丸と實

まうり彼の坊を命も瘡とありて父乃仇孤

頼ひ庚申の猿も口をぬき死く火の門を守り

舌切雀の舌をきくれ一生はあやもこと

壬生狂言の不言の佛の方便をこそ

人々たまの天神といふ玉へ

京傳門人
大榮山人誌



50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8



けんめいあつちのよひはなほ
 うーととがけいさつうまのりんの
 ぬまのあまありまやうひまをさしこ
 ぶつうらいつらちやう山神のふみりつて
 あらわりのよーとさつうまのりんを
 はげんとちのちのちつとさつうまの
 後と尾の目とさつうまのちとつうま
 ちとつうまの
 あつちのあまも人けんの
 かつうまのちとつうまの
 まいとさつうまのちとつうまの
 せしちとつうまのちとつうまの
 ちとつうまのちとつうまの
 ちとつうまのちとつうまの
 ちとつうまのちとつうまの



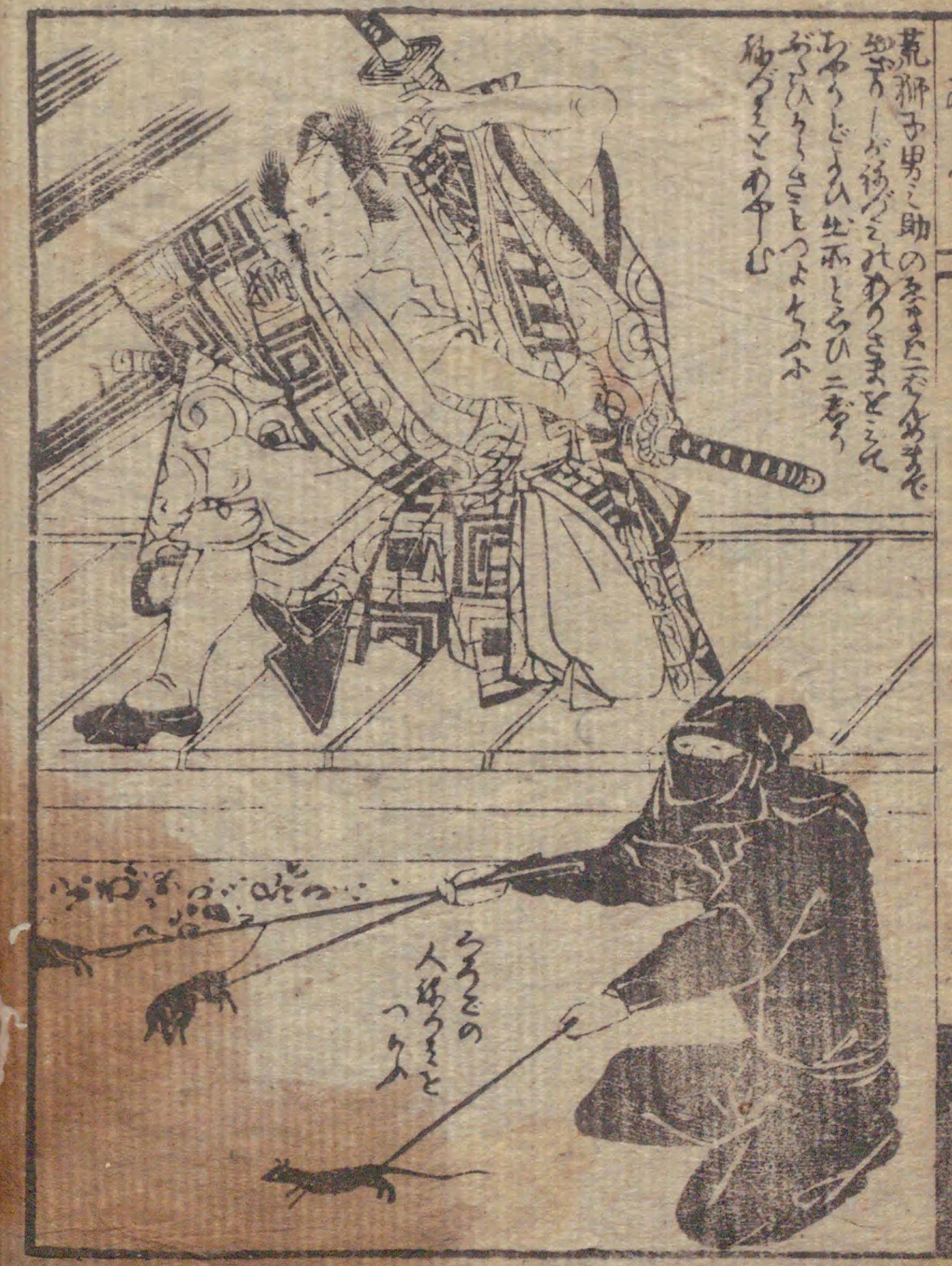
りんめいあつちのよひはなほ
 のりんのあまありまやうひまをさしこ
 いとつうまのちとつうまの
 ちとつうまのちとつうまの
 あつちのあまも人けんの
 ちとつうまのちとつうまの
 ちとつうまのちとつうまの
 ちとつうまのちとつうまの

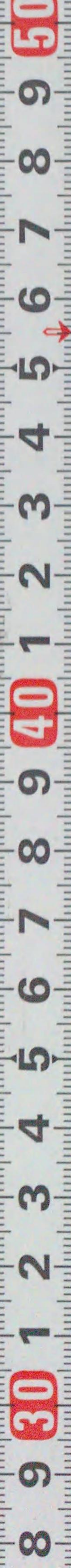














あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月

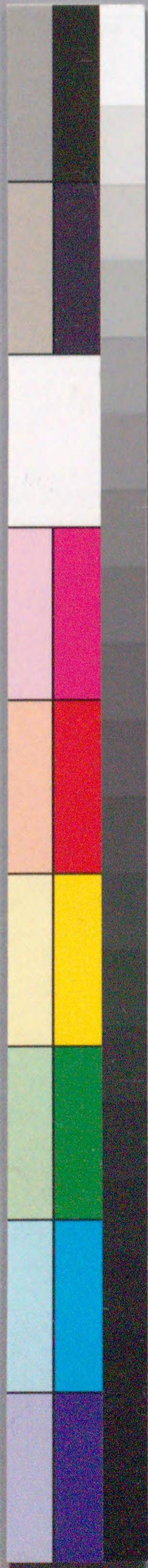


あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月

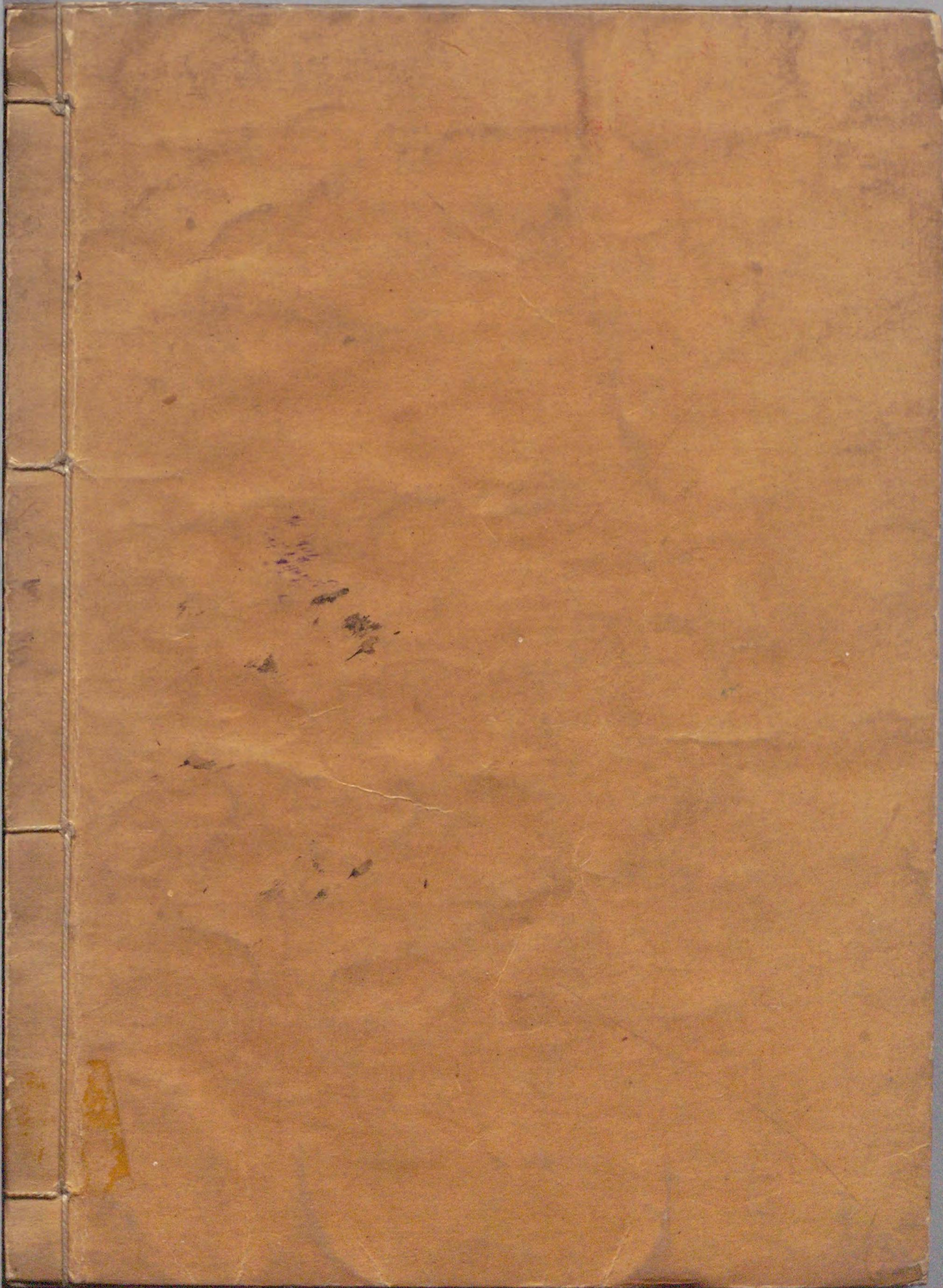
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月
あつちの正月







国立国会図書館 尽用而二分狂言：2巻 207-272



ガラス使用

